

令和8年度 ミッションおよび経営改革プラン

団体名	一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団
------------	---------------------

■ 観点① 公益貢献

ミッション①		
市民の健康寿命延伸に向けた内部障害リハビリテーションの推進		
経営改革プラン①		
①	公益貢献の取組	脳血管疾患や運動器疾患のみならず、民間病院での対応が困難な心疾患・呼吸器疾患等の「内部障害リハビリテーション」に重点的に取り組む。急性期病院である中央市民病院との人事交流により、急性期から回復期・生活期までを一貫して捉える視点を持ち、発症直後から生活期までを見据えた具体的な目標設定や円滑な退院支援ができる人材を育成することで、高度なケアの持続的な提供とリハビリテーション全体の質のさらなる向上に努める。
	期待される効果	予後の向上や再入院の防止を進め、市民の健康寿命の延伸をはかる。
	具体的目標・指標	内部障害患者の受入れは、新規入院患者数の10%を目標とする。
②	公益貢献の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・キュア神戸の事務局機能を担い、神戸市と連携し、急性期から生活期に至るシームレスなリハビリテーション提供体制の構築を推進する。 ・医療介護従事者向けリーフレットを活用し、キュア神戸について関係機関へ普及啓発を行い、登録施設の拡大をはかる。 ・専門的研修の開催により、内部障害リハビリに対応できる人材育成を行う。
	期待される効果	地域全体で切れ目のないリハビリテーション提供体制が強化されることで、重症化予防及び再入院の抑制をはかり、市民が安心して生活できる医療提供体制の充実につなげる。
	具体的目標・指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活期を中心に登録施設数の拡大（前年度比+30施設） ・研修会参加者数の増加（研修1回あたり180名） ※直近実施年度（令和6年度）平均：研修1回あたり96名

ミッション②

公的団体に求められる、安心・信頼できる在宅医療・介護サービスの提供

経営改革プラン②

①	公益貢献の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアを要する小児の訪問看護に積極的に取り組むとともに、「小児在宅医療ネットワーク」を通して、小児看護の知識・技術の向上支援に引き続き取り組む。 ・認知症初期集中支援事業については、「認知症初期集中支援チーム」を適切に配置し、必要な医療・福祉サービスへの橋渡しを行う。あわせて「認知症神戸モデル」の診断制度を周知し、早期診断・早期対応に向けた支援を継続する。
	期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・小児訪問看護のスペシャリストを育成し、地域で求められる高度な医療ニーズに応える体制を構築する。人工呼吸器管理などの高度な医療スキルの習得を支援することで、職員のキャリアアップと事業の専門性強化を同時に実現する。 ・認知症になっても、本人の意思が尊重され、住み慣れた神戸の街で自分らしく暮らし続けることができる地域共生社会を実現する。
	具体的目標・指標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児訪問看護の受入人数 40人以上 ・小児在宅医療ネットワークによる研修会の開催 6回以上 ・認知症初期集中支援事業における医療や介護サービスにつながった割合の水準の維持及びさらなる向上。2024年度 73.7% (国の目標値65%)

■ 観点② 経営改善

ミッション①

安定した経営基盤の確立

経営改革プラン①

①	経営改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・新設の「強化体制加算」取得に向け、リハビリ実績指数の高水準での維持・向上や多職種チームによる介入といった厳格な算定要件を満たすべく、必要な取り組みを進める。 ・令和8年度より本格稼働する新電子カルテシステムのA I 機能等を活用し、業務効率化とタスク・シェアリングの推進に取り組むことで、多様化する医療・介護の複合的ニーズに安定的に対応していくとともに、人的資源の有効活用と業務コストの抑制を図る。
	具体的目標・指標	法人全体で黒字化